



国際人道支援の第一線で活躍する財団学友の活躍
～ロータリー財団設立 100 周年記念し日本学友会もシンポジウムを開催!～

今年ロータリー財団は設立 100 周年を迎えましたが、11 月 27 日、東京 JP タワーに於いて「ロータリー財団 100 周年記念シンポジウム」が開催されました。当日はジョン・F・ジャーム RI 会長から学友で元国連難民高等弁務官の緒方貞子氏に「ロータリー財団 100 周年学友世界人道奉仕賞」が贈られ、その後世界各地の人道支援、難民支援に携わる学友がシンポジストとして報告しました。



現在、国連軍縮担当上級代表（国連事務次長）として活躍されている中満泉さんは、国連難民高等弁務官事務所のトルコや旧ユーゴスラビアなどの事務所で勤務され、国連平和維持活動（PKO）局でアジア中東部長などを務められました。中満さんは、「命を救うという緊急人道支援がかけがえのない国際協力の分野であることは今後も変わりません。しかし、今日、世の中が非常に変わってきていて、国際環境も激変してきています。ですから従来型の国際協力のやり方では、問題を解決することができなくなってきています。紛争の形や性質が変わってきていますから、国連そのものや国際社会が危機に対応するアプローチも適応させていかなければいけません」と、人道援助の在り方について話されました。

また、ユニセフの職員としてアフリカでポリオの予防接種の担当をしていた圃枝美佳氏は、「ポリオの接種自体は大変重要な予防手段ですが、予防選手についての知識も経験も無い現地のお母さん達にとっては、外国人が持ってきた得体の知れないものとしが写りません。先ず、予防の必要性を母親に理解してもらうところから始める必要があります。」と話されました。



当日の司会者は同じく学友で、NHK でニュース解説などもされていた榎原美樹さん。財団の奨学金は、ロータリアンの浄財から生み出される若者への学ぶ機会を提供する貴重な贈り物です。そして、シンポジストのような人道支援や交際的な平和と健康を維持するために活躍する学友をはじめ、日本の各地域や世界で広く研究者や芸術家や教育者や市民として活躍しています。財団奨学金の意義と学友が育って活躍する姿にふれた 100 周年シンポジウムでした。



(Photo by Allison Kwesell)